研究だより

令和５年２月２０日（月）NO.１０

１　本年度の授業研究について

【成果】

◎本時の振り返りから次時の課題をつくること，予習に取り組ませ次時の問題について気付きを書かせることで，子どもの問いをめあてにつなげることができた。

◎楽しく意見交流する児童の姿が多く見られた。しっかり教えることが必要な時は教師と児童が一対一のやりとりをしつつも，ペアやグループの意見交流の場を設けることで，児童が自分の思いを伝えることができるようになってきた。

【課題】

教師が話しすぎず，さらに子ども同士が活発に意見を交流して，子どもたち自身で学びが進んで行くような授業を目指していきたい。

２　ミニ研修（2 月 17 日（金）　15:15～15:45）

白岳小学校　第５学年　国語科「大造じいさんとがん」の授業を視聴しました。めあてを立てる場面と全体での意見交流の場面を視聴して，気付きを出し合いました。

【この授業から学んだこと】

・子どもたちが「自分の意見を言うのは当たり前。」になっている。
・発表した後に「あああ～」という聞いている児童からのつぶやきがあった。発言や質問がしやすい雰囲気ができている。
・子どもたちが「あああ～。」という度に，新しい気付きが生まれている。
・話合いのルールが確立されている。
・発表する，聞く，気付きをどんどん出し合う子どもたちの姿が素晴らしい。
・子どもたちのノートには考えがびっしり書かれているのではないか？
・先生は，子どもの意見をつなぐだけで前に出てこない。
・先生が，自分の考えをもたせるところに重点を置いている。
・意図的指名で児童の思考をつなげ，深めている。
・視点を決めた上で子どもたちに選択させ決定させる先生の指導が，子どもたちを主体的にしている。
・児童をこのような姿にしたいと思ったら，低学年の時からの積み重ねが大切である。
・先生がどっしりと子どもの活動を見守っている。
・先生は，この単元だけのことでなく，一年間を通してどんな力を付けていくかを綿密に計画されている。日々の授業を積み重ねて子どもたちが着実に力を付けているのが分かる。

【山田校長先生・角井教頭先生より】

来年度は，道徳科の研究を行う。個人思考→グループでの意見交流→全体での意見交流となる授業展開で，子どもが同じことを言うのでは意味がない。友だちの意見を聞き，それを踏まえた上で自分はどう思うのか，考えが変化していかなければならない。さらに，子どもの思考をつなげ深め，ねらいにせまるには，意図的指名も必要である。